

味カ三味 季節の御料理

新松葉家奴

下諏訪 立所通り
電話 ㊟八五三〇番



Shimosuwa

下諏訪

しもすわ

諏訪湖総局
取材・広告
TEL 0266-22-2693
FAX 0266-22-2297



サクラ・ツツジ

☒ suwako@nagano-np.co.jp

下駄スケート身近に感じて

諏訪湖博物館 常設展示を拡充

・赤彦記念館

下諏訪町の諏訪湖博物館・赤彦記念館は、今年3月に同館所蔵の下駄スケートや氷滑り下駄、真田紐の計130点が「諏訪の下駄スケートコレクション」として国の登録有形民俗文化財に登録されたを受け、下駄スケート常設展示の拡充を進めている。キャプションを増やしたほか、新

に「下駄スケートを履いてみよう!」コーナーも設置。同館は登録を機に、多くの人に下駄スケートを身近に感じてほしいとしている。

発祥の地である同町にまともに残るコレクションで、冬季における娯楽や遊戯の様子を示すなど評価され、登録に至った。現在でも、冬

季に開設される町営の「秋宮スケートリンク」で、下駄スケートが貸し出されている。展示では、明治から昭和30年代まで改良が続いた下駄スケートについて、特許状などから改良点を詳しく解説。1906(明治39)年、同町の学生からの依頼を受けて、町の飾り職人、河西準之助が初



めて作った「カネヤマ式」に始まり、刃の軽量化を図った「小松式競走用快速スケート」、大正時代に生まれた刃の長い「関式改良スケート」、1927(昭和3)年に考案されたステンレスを取り入れた「矢島式スケート」などが並ぶ。

当時、下駄スケートは安価(3000円程度)であったため、子どもたちを中心に爆発的に普及。需要に応えようと、諏訪一円の鍛冶屋が下駄スケート作りに取り組み、独自の工夫を加えていった。05年の鉄道開通もあり、スケートは観光客の娯楽としても人気になった。新たに佐久地方の人から寄贈された「諏訪名産」の刻印のある下駄スケートは諏訪の土産として下駄スケートが有名だったことを伝える貴重な資料だ。

学芸員の太田博人さんは「下駄スケートの改良の歴史は後に精密で栄えた諏訪のものづくりに通じる。産業史としても見てほしい」と話している。

↑
国の登録有形民俗文化財に登録され、常設展示の拡充が進む下駄スケートコレクション